

福山大学大学院 人間科学研究科 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的	
領域:	使命・目的、教育目的
2020年度	人間科学研究科
中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格公認心理師に対応した理念・目的の周知徹底を図る ・理念・目的に即したカリキュラムの充実を図る ・対人援助職、研究職、博士課程への進路を保障する
2020年度	人間科学研究科
中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	「人間科学研究科心理臨床学専攻は、現代社会における心の健康に関する理解を深め、高度な専門知識と論理的思考力を伴う研究実践力及び様々な臨床の場に対応できる対人援助実践力を修得した人材を養成する。特に、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理支援に関する専門家として援助と提案ができる人の育成を目指す。」としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②2020年度人間科学研究科パンフレット
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	研究実践力と対人援助実践力を併せ持つ人材を育成するために、カリキュラムの検討を進めている。
年度目標	公認心理師養成における本研究科のカリキュラムを検討し、さらに特色を明確化する。
年度報告	研究と対人援助実践力をともに育成するために、カリキュラム検討ワーキンググループを立ち上げ検討を進めた。病院、学校などの実習施設を訪問して実習先指導を行った。また、実習先の開拓も進めた。
達成度	A
改善課題	カリキュラム検討ワーキンググループを中心としてカリキュラムの改定案を作成し、それを研究科全体で共有・検討する。各実習領域（医療・福祉、教育分野など）の要請に応じた教育体制を整える。
根拠資料	①研究科委員会議事録 ②カリキュラム検討ワーキンググループ会議記録 ③実習ワーキンググループ会議記録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	個々の教員の研究・専門と関連した実習先の確保に努めるなど、社会の要請に合致したカリキュラムの検討に取り組んでいる。
年度目標	各実習領域（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）や社会の要請に応じた教育体制を整える。
年度報告	実習ワーキンググループを中心として、各実習領域や社会の要請に応じた教育体制を検討し、それを研究科委員会で共有しつつ全体で検討した。病院、学校などの実習施設を訪問して実習先指導を行った。また、実習先の開拓も進めた。
達成度	A
改善課題	引き続き、社会や実習先の要請に応じた教育体制の検討を進める。
根拠資料	①研究科委員会議事録 ②実習ワーキンググループ会議記録
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	人間科学研究科
中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	公認心理師の養成については研究科会議等で情報が共有され、方向性や課題について教職員の理解と指示が得られている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究科委員会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	学生便覧、HP、人間科学研究科案内（パンフレット）等で公表している。
年度目標	より効果的な周知方法を引き続き検討し実行する。
年度報告	学生便覧、HP、人間科学研究科案内等で公表するとともに、2020年度はオンデマンド型の大学院入試説明会を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②研究科HP ③2020年度人間科学研究科案内（パンフレット）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	公認心理師の養成、本学の理念、心理職及び研究者を目指す院生への対応を組み込んでい
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	教育目的は3つのポリシーに反映されていると考える。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②研究科HP ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	公認心理師資格に関連した分野を網羅し、かつ基礎・実験系の教員も配置し、研究力のある心理職養成を企図した研究教育組織となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②研究科HP ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

基準2. 学生**領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2020年度

人間科学研究科

中長期計画	・定員確保に向け最大限の努力を払う ・院生の研究と学修をサポートする指導体制の確立 ・院生とのコミュニケーションを円滑に図り、教育の改善と研究の推進を図る
-------	---

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	アドミッションポリシーは、大学HP、パンフレット、学生募集要項に明記して周知してい
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②2020年度人間科学研究科パンフレット
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	入試の面接でアドミッション・ポリシーに関する質問を行い、選抜の判断材料の1つにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②2020年度人間科学研究科パンフレット
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	研究科委員会で入試の総括を行うが、昨年度5人の受験生が12人に増加したが、入学者は5人で同じであった。それらに関する分析は十分とは言えない。
年度目標	他大学との競合関係、学部在学生のニーズ調査などが参考になると思われるので、できることを実行したい。
年度報告	研究科委員会にて入学者が昨年度の5人から7人に増えたことについて共有した。社会人と他大学からの入学がそれぞれ1人ずつ増えたことが原因である。
達成度	A
改善課題	引き続き、学部生の公認心理師希望者の調査を含めた、長期的なスパンでの分析が必要である。
根拠資料	①研究科委員会会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	独自のパンフレットを作成、学内外での説明会等を行ってきたが、他の大学院（特に国立大学）の公認心理師と臨床心理士のダブルライセンス対応が進み、競争が激化し定員割れが続いている。
年度目標	本学心理学科の学生への動機づけを高め、学内進学者を増やすことを目標にする。犯罪心理学・捜査心理学の専門性を持たせる教育・研究の構想を引き続き検討する。また、学外からの入学者の獲得を目指す。
年度報告	案内パンフレット、オンデマンド説明会等を行ったが、学内進学者は現状維持であった。但し、社会人及び学外の希望者に事前面談することで、社会人1人、学外者1人が入学し
達成度	B
改善課題	学内から受験しても合格ラインに届かず、進学に向けて学業・研究への動機づけを高める働きかけも必要である。
根拠資料	①研究科委員会会議議事録 ②社会人入試事前相談者記録
次年度の課題と改善の方策	公認心理師カリキュラム1期生の修了・国家試験合格の周知も含めて、学部生への動機づけやレディネス形成を引き続き働きかける。

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	大学院生の学修体制・学習環境の整備については、研究科委員会で協議し、事務と協力して実行している。
年度目標	そのことについて学内外に周知するようにする。
年度報告	学部事務他、事務局や大学の諸機関の役割について、オリエンテーションやホームページ等で周知した。
達成度	A
改善課題	学部事務他、事務局や大学の諸機関の役割について、オリエンテーションやHP等でより十分に周知する。
根拠資料	①研究科ホームページ

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	心理学科の心理学統計法、心理学実験、基礎ゼミ１・２の授業にTAを配置している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状通りであった。ただし、コロナ禍のため前期は十分に実施できなかった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度ティーチング・アシスタント経費計画調書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	公認心理師資格取得に必要な実習科目を通してキャリア形成を支援するしくみとなっている。もう一つの柱として、司法・犯罪分野の実務家教員を採用して、この分野の公務員を育成する体制を整えている。
年度目標	職業意識とマナーの修得などについては、学内のキャリア形成、就職支援体制を活用する。司法・犯罪分野のフィールド研究者及び教育者等と引き続き交流を図る。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度人間科学研究科実習要綱他、実習関連資料 ②2020年度研究科委員会会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	教員が共有できるフォルダに過去3年間の修了生の進路先のデータを記載し、研究科教員会議や研究科委員会で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科修了生就職・進路状況表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	公認心理師、臨床発達心理士資格に必要な学内外実習の体制を整備している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度人間科学研究科実習要綱他、実習関連資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	指導教員、就職委員、就職課の連携により、心理の専門職をめざした就職支援を行っている。博士課程への進学指導も行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科修了生就職・進路状況表
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。

現状説明	福山大学大学院奨学生制度があり、本学出身者に適用される。社会人や他大学からの学生には奨学制度がないのは問題であろう。令和元年度は社会人2人、他大学学部生2人の見学もあった。留学生には国費留学生や民間の奨学生を申請する機会がある。私費留学生のための減免制度もある。TAは経済的な支援の意味ももっている、この枠を増やすのが望ましい。
年度目標	他大学出身者や社会人のための経済的支援、TAの拡充を引き続き検討する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	公認心理師実習とのバランスも考慮しながら、TAの担当の機会を引き続き提供する。
根拠資料	①2020年度ティーチング・アシスタント経費計画調書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドラインがあり、相談窓口として各学部にはハラスメント相談員が2人配置されている。一連の手続き等は大学HPや掲示版に掲載しているほか、入学時のオリエンテーションで周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。院生からのハラスメントに関する相談がなかった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン（情報公開のページ） https://www.fukuyama-u.ac.jp/disclosure/activities ②2020年度大学院生アンケート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	大学全体のプログラムで大学院生が参加可能なものはそのつど紹介している。また、研究科の教員が関係する研究活動や社会貢献活動への参加も奨励している。
年度目標	現状を維持
年度報告	今年度はコロナ禍のため、課外活動が制限され、十分な取り組みができなかった。
達成度	A
改善課題	院生は授業・研究と実習で多忙であるが、2021年度は感染症の状況が改善すれば、再び意義のある活動を紹介していきたい。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施しています
現状説明	心理学科棟（29号館）とこころの健康相談センター（23号館）は心理学科との共用であるので、心理学科会議において協議し、学部事務・事務局の合意を得た上で運営・管理を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持 トイレの配水管の改修工事（4月）、実習室の改修工事（7月）、2階の水漏れ工事（1月）などを学部事務室と連携して対応した。また、網戸の予算要求を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②令和2年度心理学科・人間科学研究科・こころの健康相談センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	心理学科と共用の29号館のPC室、実験室、ゼミ室、院生研究室を利用している。自習や文献調査に図書館を利用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持 附属図書館臨時休館中の各種データベースのリモートアクセスの連絡によるPsycINFO（世界最大の心理学データベース）の活用
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①福山大学大学院の教育・研究等に関するアンケート集計結果 ②附属図書館臨時休館中の各種データベースのリモートアクセスについて（4月15日メール配信）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	29号館、23号館へのエレベーターの設置を要望しているが認められていない。23号館にユニバーサルトイレの設置、29号館階段への手すりの設置は済んでいる。アメニティ・スペースは院生研究室があり、備品等も充実している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教務のてびきの講義室・研究室等配置図
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	23号館および29号館ともに院生の学修環境（カンファレンス・ルームなど）が整備されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持 トイレの配水管の改修工事（4月）、実習室の改修工事（7月）、2階の水漏れ工事（1月）などを学部事務室と連携して対応した。また、網戸の予算要求を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学大学院の教育・研究等に関するアンケート集計結果 ②令和2年度心理学科・人間科学研究科・こころの健康相談センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	危機管理基本マニュアル_第1版にしたがって整備点検を全学的に行っている。
年度目標	危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる研修を行う。
年度報告	危機管理基本マニュアルに沿った防災訓練を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ゼルコバメール「緊急地震速報訓練の実施について」 ②「緊急地震速報訓練実施教員用マニュアル.pdf」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	29号館内に劇物・危険物はないため、管理システムの整備はしていない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学の方針に従っている。全学の避難マニュアルの配布、防災訓練を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持 11月5日（木）、12時10分発令で緊急地震速報訓練を実施して、多目的グランドへ避難をして日下部学科長が学部生と院生の避難を確認した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①福山大学危機管理基本マニュアル ②福山大学 自然災害対応マニュアル ③「緊急地震速報訓練実施教員用マニュアル.pdf」
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	毎年、全研究科で「大学院の教育・研究に関するアンケート」を実施し、各研究科及び研究科長等協議会で分析結果を共有し、改善に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①評議会資料 ②2020年度第9回研究科委員会議事録 ③2020（令和2）年度「大学院の教育・研究等に関する アンケート」総括
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の心身の健康保持・増進のために保健管理センターがある。保健管理センターには医師1人、看護師1人、心理カウンセラー1人が常駐し、定期健康診断の実施、保健・健康指導、カウンセリングなどの業務を行っている。保健管理センター職員による分析結果は評議会にて報告される。
年度目標	保健管理センターによる指導に加えて、指導教員が定期的に面談を実施する。大学院の教育・研究等に関するアンケート集計結果のフィードバックを研究科長が実施して、意見を聞き取る。
年度報告	指導教員による面談及び研究科長によるアンケートのフィードバックを実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①評議会資料 ②個別指導計画 ③2020年度第9回研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	毎年、全研究科で「大学院の教育・研究に関するアンケート」を実施し、各研究科及び研究科長等協議会で分析結果を共有し、改善に役立てている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持 アンケート結果を公聴会終了後に研究科長が院生に説明して意見交換をした。アンケート結果に基づく研究科FDを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学大学院の教育・研究等に関するアンケート集計結果 ②2020年度人間科学研究科FD研修会（院生対象のアンケート調査結果を基に） ③「令和2年度 大学院FD研修会実施報告」（研究科長等協議会作成）
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

基準3. 教育課程

領域： 卒業認定、教育課程、学修成果

2020年度

人間科学研究科

中長期計画	・公認心理師資格に対応しつつ、個性化をめざした大学院構想を具体化する ・公認心理師等の対人援助職の養成に必要な教育課程と教育方法を確立する ・国家資格（公認心理師）に合格するレベルの教育をめざす
-------	---

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	学生便覧や大学ホームページにより学内外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ ②2020年度学生便覧 p. 173
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーを踏まえた各基準は、研究科委員会において検証し策定している。修士論文の評価及び学位審査、実習に関わる科目評価の一部についてはルーブリック評価を行い、学生にも周知している。学生便覧・シラバス・大学ホームページ等により周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ 、 https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/curriculum-map/#link-c ②2020年度学生便覧 pp. 173-174、 pp. 176-178 ③2020年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	各基準は、シラバスや学生便覧に記載しており、新入生・在学生オリエンテーション等を通じて、学生に周知している。修士論文の評価及び学位審査は、ルーブリックに基づき行っている。また、毎年度、研究科委員会において厳正な適用を検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ 、 https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/curriculum-map/#link-c ②2020年度学生便覧 pp. 173-174、 pp. 176-178 ③2020年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	公認心理師カリキュラムに対応したカリキュラム・ポリシーを策定し、学生便覧・大学ホームページで周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ ②2020年度学生便覧 p. 173
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。

現状説明	心理の専門職を志向する方向で両者は一貫している。研究科のディプロマ・ポリシーである、様々な臨床の場における心理支援に関する専門家として活動する人材の育成を目指して、幅広い心理臨床分野の知識とスキル、さらには個人や社会の諸問題に関する解決能力の修得が可能となるよう、3つのワークのもとでカリキュラムを編成している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ ②2020年度学生便覧 pp.173-174
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、コースワーク、リサーチワーク、キャリアワークの3つの分野で教育課程を編成している。いずれも、公認心理師資格にも対応している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ ②人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/curriculum-map/ ③2020年度学生便覧 pp.173-175、 p.179
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	専門教育に比重をおいているため教養教育は十分とは言えないが、不足分は授業時間外に特別に研修・補習時間を設けて補っている。
年度目標	公認心理師養成に関わるリテラシー教育、マナー教育含め、どのような教養教育が必要であるか研究科委員会で検証を重ねる。
年度報告	研究科カリキュラムワーキンググループを立ち上げ検証を重ねた。学外実習への参加を希望する学生を対象として、授業時間外に、一般常識、社会常識、マナーに関することを学ぶための研修を開いた。
達成度	S
改善課題	研究科カリキュラムワーキンググループを主導に検証を重ねる。
根拠資料	① karin 日常業務 > 大学教学組織 > 大学院 > 心理臨床学専攻（修士課程）> マナー講座 > 2020年度
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	アクティブ・ラーニング、ICT活用など、各教員の工夫下で、効果的な授業を実施した。それらはシラバスで周知した。教授方法に関する学生の評価等は「大学院の教育と研究等に関するアンケート」で確認した。
年度目標	大学院生アンケートの質問項目等、効果検証の指標について検討する。
年度報告	大学院生アンケートの結果に基づき研究科 FD「大学院における遠隔授業のあり方」を実施して問題点と改善点を検討した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度シラバス ②2020年度大学院の教育と研究等に関するアンケート ③2020年度第10回研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	現状を維持
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	研究的視点をもつ心理の専門職を養成するという方向は一致していると判断している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/grad-human-culture-policy/ ②人間科学研究科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/grad/grad-human-culture/curriculum-map/#link-c ③2020年度学生便覧 p.173、 p.176-178
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目 3-3. 学修成果の点検・評価

点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	研究科のアセスメント・ポリシーは未策定であるが、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法をシラバスに記載している。それぞれの授業科目で到達目標を定め、試験等でその達成度を評価している。毎年度のシラバスチェックでそれを検証している。
年度目標	他の研究科と足並みをそろえてアセスメント・ポリシー策定に関して検討する。
年度報告	アセスメント・ポリシーの策定には至らなかったが、それ以外の三つのポリシーはそれぞれの授業科目に反映され、それぞれの授業科目で到達目標を定め、試験等でその達成度を評価するというしくみになっている。毎年のシラバスチェックでそれを確認している。
達成度	A
改善課題	他の研究科と足並みをそろえてアセスメント・ポリシー策定に関して検討する。
根拠資料	①2020年度シラバス ②2020年度人間科学研究科シラバス点検シート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	「大学院の教育と研究等に関するアンケート」により大学院生の意見を聴取し、その結果を教員間で共有し、研究科委員会で検討している。年度末に、院生へもフィードバックしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度大学院の教育と研究等に関するアンケート ②2020 年度第10 回人間科学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

基準4. 教員・職員

領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2020年度

人間科学研究科

中長期計画	心理学科は発達・教育系、医療・福祉系、地域臨床系の3つの系で構成されており、それぞれの系において同等の数(現在は3人ずつ)の教員を配置している。それぞれの分野の研究を志向するとともに(科研費は全員応募)、教育にも熱意を持ち(授業評価は全学平均を上回る)、フィールドでも学生を指導できる教員を採用するようにしている。また、学内の役職にも就き校務にも積極性を持つ教員を採用し(学長、学部長、研究科長、入試委員長等を輩出してきた)、心理学科のみならず人間文化学部や大学全体の将来を担える人材を募集している。
-------	--

2020年度

人間科学研究科

中点検項目 4-1. 教学マネジメントの機能性

点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長のリーダーシップは確立され、発揮されている。人間科学研究科の教育は、研究科長のリーダーシップの下、研究科委員会で審議・決定している。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究科長が、学科長と協力し、リーダーシップを発揮した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①人間科学研究科議事録 ②学科会議議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	人間科学研究科では毎年教育・運営に必要な仕事について、全教員及び職員で役割分担できるように研究科委員会で審議・決定している。
年度目標	必要に応じて、役割における責任の明確化を研究科委員会で検討する。
年度報告	国家資格の導入により実習担当業務が増加したが、権限と責任はほぼ明確であった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科委員会議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	2人の職員を学科の仕事に主に従事する者と、学科附属こころの健康相談センターに主に従事する者に分け、共学マネージメントの機能性を高める努力をしている。
年度目標	役割の明確化ができていないか適宜研究科委員会で検証する。
年度報告	役割の明確化ができていないか適宜研究科委員会で検証した結果、1名を29号館に配置して授業補助、もう1名を23号館に配置してセンターでの実習補助を主役割として分担していることを確認した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科委員会議事録
次年度の課題 と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	心理学における各専門領域における教育目的に即した資質を有する教員が配置できている。また、性別・年齢は適切な構成となっている。
年度目標	人間科学研究科の適切な運営に繋がる職階構成を目指す。
年度報告	教員の配置及び構成について、公認心理師養成にかかわる実習担当教員を1人配置した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科委員会議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	確保されている。
年度目標	2019年度より大幅にスタッフが入替わったため、資格養成機関に求められる教員数の確保ができていないかを綿密に検証する。
年度報告	2020年度より、公認心理師養成にかかわる実習担当教員を1人増員する。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学設置基準 ②評議会議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	研究科独自のFDを年に複数回実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科FD実施報告 ②大学院FD研修会実施報告
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	研究科独自には実施していないが、研究科FDに助手・事務職員も参加しており、全学FD・SDに参加するようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	現状を維持
根拠資料	①大学院FD研修会実施報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	ゼルコバ、セレッソ、Karinを活用している。また、会議等にデジタルデバイスをできるだけ使用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①キャビネットKarin ②Office365のSharepoint
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	授業以外に大学運営に関わる業務に時間を取られている教員が多く、研究時間が確保されているとは言い難い。研究室の施設環境も整備されているとは言い難い。また、耐用年数を超えた研究機器や研究用のデスクトップパソコンが複数ある。
年度目標	2019年度及び2020年度からの教員の研究環境に関する情報収集をし、研究環境整備について予算化していく。特に、中長期整備計画を立てた機器（アイトラッキングシステム一式：No. 心理学科-2018-01、基礎医学用研究システム：No. 心理学科-2018-02）を中心に予算要求を計画していく。土日行事参加の代休などまだまだ不十分な点があるので、研究科委員会などで改善すべき事項を聴取し、改善に向けて努力する。
年度報告	中長期整備計画を立てた機器（アイトラッキングシステム一式：No. 心理学科-2018-01、基礎医学用研究システム：No. 心理学科-2018-02）を中心に予算要求をした。土日の行事の際には代休を取得した。
達成度	S
改善課題	耐用年数を超えた研究機器や研究用のデスクトップパソコンが複数ある。
根拠資料	①人間科学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	耐用年数を超えた機器やパソコンの廃棄やソフトの更新を行ったが、まだ更新されていないものもあり、廃棄か更新を行う。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	全学の方針に従い、教員・学生ともにコンプライアンス研修に参加している。必要な資料の配布も行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学学術研究倫理審査委員会規程 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/007/201605/%E7%A6%8F%E5%B1%B1%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%AD%A6%E8%A1%93%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%80%AB%E7%90%86%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%E8%A6%8F%E7%A8%8B.pdf)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	個人研究費は前年度業績に応じて適正に配分している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①科学研究費助成事業 HP http://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/project-list.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	整備されており、かつ周知もされている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学研究関連ガイドブック (http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/047/201707/guidbook.pdf)
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2020年度

人間科学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価が研究科の教育に生かされるようなPDCAサイクルの確立 学生募集、教育内容・方法、学修成果の評価にとくに留意する [昨年度と同じ]
-------	--

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	自己点検評価委員会及び外部による評価委員会により実施している。 ・自己点検評価が研究科の教育に生かされるようなPDCAサイクルの確立 ・学生募集、教育内容・方法、学修成果の評価にとくに留意する
年度目標	現状を維持
年度報告	2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、自己点検評価を行っている。自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討している。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①自己点検評価書（本書類） ②office365学科フォルダ（¥心理学科¥ドキュメント¥自己点検評価書関連） ③人間文化学部自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	毎年の自己点検評価には研究科の教員全員がかかわり、報告書の内容を共有している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①自己点検評価書（本書類） ②office365学科フォルダ（¥心理学科¥ドキュメント¥自己点検評価書関連）
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	本学では組織的なIR活動が行われてこなかったため、十分なデータの蓄積がない。研究科単位でのデータも不十分である。よって、改善にいかされているとは言い難い。
年度目標	IR室の本格稼働に伴い、研究科としても連携が必要である。
年度報告	少人数に対する遠隔講義のあり方についてのFDを行った。また、公認心理師養成として自習と研究の両立の在り方について議論した。その他、公認心理師の養成が本格化するにあたってカリキュラムを再度見直すためにカリキュラムWGを立ち上げた他、各種資料を収集しクラウド上にて共有した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①第7回、第10回人間科学研究科委員会議事録 ②第11回資料5 令和2年度 大学院FD研修会実施報告
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	自己点検評価の結果をもとに、研究科委員会議で対応策を検討することになっている。しかし、その機能性の検証は行われていない。
年度目標	PDCAサイクルがうまく機能しているかの検証を行う必要がある。
年度報告	2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、自己点検評価を行っている。自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討している。また、毎年の自己点検評価には研究科の教員全員がかかわり、報告書の内容を共有している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価書(本書類) ②office365学科フォルダ(¥心理学科¥ドキュメント¥自己点検評価書関連)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	全教職員に対するコンプライアンス研修が行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	人間文化学部のコンプライアンス教育(2020年7月8日)並びにハラスメントに関する研修(2020年12月16日)に参加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第4回人間文化学部教授会議事録 ②第16回人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間科学研究科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価(本学独自基準)

2020年度

人間科学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究科としてのブランディング戦略を策定する。 ・学部、学科、研究科横断的な研究を進め、福山大学ブランディング事業に協力する。 ・院生の研究力を高める。 <p>具体的には、地域住民の心の健康、安全・安心な地域社会の創出に関する研究を推進していく。</p>
-------	--

2020年度

人間科学研究科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略(ver. 2018)の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成する」という福山大学ブランディング戦略の方針について、研究科FD等により周知を進めている。
年度目標	現状を維持

年度報告	ブランディング戦略の方針についての周知は現状を維持できている。また、2020年4月から「福山大学備後圏域経済・文化研究センター」が発足し、学部教授会で周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①私立大学研究ブランディング事業成果報告書 ②福山大学備後圏域経済・文化研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	❷ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	社会貢献と福山大学の独自性の観点から、教員と学生の活動や研究を通して、地域の安全・安心な環境づくりと心の健康づくりに取り組んでいる。備後地域に根付いた公認心理師の育成のため、実習先の開拓や確保に取り組んでいる。
年度目標	他大学の心理系大学院との差別化を図るために、研究科としてのブランディング戦略を明確にするほか、継続的な実習先の確保を目指す。
年度報告	院生と教員はそれぞれの研究フィールドをもち、社会貢献をめざす実践的研究を推進している。複数の領域において、継続的な実習先が確保できた。また、2020年4月から「福山大学備後圏域経済・文化研究センター」が発足し、学部教授会で周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①私立大学研究ブランディング事業成果報告書 ②福山大学備後圏域経済・文化研究センター規程 ③実習ワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	❸ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	本研究科は公認心理師資格に対応した大学院を標榜しているが、これだけでは他の大学院との差別化は難しく、国際化や未来創造の方向性も希薄である。心理学科の教員が多領域にまたがっていることは本研究科の特色として挙げられるが、明確なブランディングには至っていない。
年度目標	様々な領域の専門家による指導や実習が受けられる点を明確に打ち出し、その他地域社会、国際社会につながる研究科の特色を打ち出せるよう研究科で議論する。
年度報告	様々な領域の専門家による指導や実習が受けられる点を明確に打ち出し、研究科の特色を打ち出せるよう研究科で議論した。様々な領域にわたって学外実習を行えるよう、新規実習先の開拓を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①私立大学研究ブランディング事業成果報告書 ②福山大学備後圏域経済・文化研究センター規程 ③実習ワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	❹ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	こころの健康相談センターを社会貢献の拠点、知の拠点と位置付け、研究科としてのブランド力の向上を目指しているが、まだ道半ばであり、成果の検証も十分とは言えない。
年度目標	こころの健康相談センターについて、より効果的な方法で情報発信を行い、社会貢献や知の拠点としてセンターを位置づける工夫をする。センターのよりよい運営方法についても、研究科会議等で議論する。
年度報告	新型コロナ対策のため、今年度はこころの健康相談センターの閉室期間が長かったが、9月より再開した。ケースも徐々に増加している。センターのよりよい運営方法について、運営委員会等で議論した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①こころの健康相談センター紀要第3号
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	公認心理師資格に対応した大学院として、地域で活躍する公認心理師等、心理の専門職の育成を行っている。地域の病院等への就職者を継続して輩出している。進路状況表としてまとめ、進路先を実習施設に取り組みことで、その成果を検証している。
年度目標	大学院への進学者が増えるような働きかけをより積極的に行う。
年度報告	地域への就職者を輩出した。実習先の施設長等と協議して将来の就職に繋がるような、内容の充実化を図った。公認心理師試験対策についても検討中である
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間科学研究科委員会議事録 ②人間科学研究科修了生就職・進路状況表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	教員と院生は地域のニーズに応える形で、様々な心理臨床活動や地域貢献活動に従事しており、それらの地域連携活動を、本研究科の教育研究の成果として可視化している。成果の検証は研究科委員会で実施している。
年度目標	引き続き、多くの情報を発信し、可視化を推進する。
年度報告	様々な心理臨床活動や地域貢献活動に従事し、研究成果として可視化した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①こころの健康相談センター紀要第3号
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	本学の全人教育の理念に即して、現代社会における心の健康に関する理解を深め、高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力及び様々な臨床の場に対応できる対人援助実践力を修得した人材を養成することを研究科の目的としている。そのために、研究力と対人援助実践力を併せ持つ人材養成を念頭においたカリキュラム構成としている。
年度目標	公認心理師受験資格を得るための実習の評価と、修士論文の評価で成果を検証する。
年度報告	実習の評価と、修士論文の評価で成果を検証した。学外実習先からの実習学生評価票において全体的に高評価を得た。修士論文も全員が合格基準に達している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①実習学生評価票 ②2020年度第10回研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	教員の研究活動や各種ボランティア活動を推進し、地域の安全・安心な環境づくりと心の健康づくり、産学共同のプロジェクトに取り組んでいる。備後圏域経済・文化研究センターの設立やその内部規定の確定、広島県警察本部生活安全部と福山大学人間文化学部との協働事業契約の締結を図り、包括的な枠組みを整えている。
年度目標	成立した枠組みを十分に生かし、本研究科のブランディング戦略の具体的展開を図る。
年度報告	教員及び学生が心理学科独自の社会連携活動を実施し、対外的に発信している。また、福山市の企業を対象に心理評価に関するコンサルを行い研究結果が学会誌に掲載された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/41873/ ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/42768/ ③学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/34031/
次年度の課題と改善の方策	
2020年度 人間科学研究科	
中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。

現状説明	公認心理師資格の導入が優先されていること、心理学科と全学的なブランディングとの関連性が明確ではないことから、取り組みに至っていない。
年度目標	地理的な「まち」との関連を見出すことは難しいことから、「ひと」や「暮らし」に焦点を当て、議論を進める。直接的な関連でなくとも、地元の企業と連携したものづくりと心理評価に関する研究や、地元の小学校における防犯活動の研究、地元の病院や教育現場・子育て現場への支援に関する研究等で、地元への包括的な支援を目標とした研究を推進する。
年度報告	地元の小学校における防犯活動の研究、地元の病院や教育現場・子育て現場への支援に関する研究等で、地元への包括的な支援を目標とした研究を推進した。また、福山市の企業を対象に心理評価に関するコンサルを行い研究結果が学会誌に掲載された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	① https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/anzen/onomichishiritsunishifujishougakkou.html ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/34031/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉓ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	全員が科研費には申請している。学内研究助成にも数名が応募している。学内の研究・教育支援基金（犯罪心理学を応用した安全・安心まちづくりプロジェクト基金）も立ち上げ、広く資金を募っている。間接的には関連があっても、福山大学ブランディング研究という位置づけは明確ではない。
年度目標	科研費等の公的資金、学内助成金の採択率を高める。
年度報告	科研費や学内助成金の採択率が高まっている
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2(2020)年度新規採択課題一覧 https://www.fukuyama-u.ac.jp/project/project-list/ ②犯罪心理学を応用した安全・安心まちづくりプロジェクト基金 https://www.fukuyama-u.ac.jp/kikin/details/#kikin25
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉔ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	学術雑誌への投稿、学会発表を中心に社会への公表を行っている。
年度目標	より多くの成果を公表できるよう、積極的な情報発信に努める。
年度報告	学術雑誌への投稿、学会発表を中心に社会への公表を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/34031/ ②こころの健康相談センター紀要第3号
次年度の課題と改善の方策	